

狭心症の診断

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



胸痛のある患者さんを、狭心症かどうか診断する上で、最も重要なのは問診です。狭心症の典型的な症状は、胸全体の広い範囲が重苦しく締め付けられるような痛みであり、5分間前後持続して次第に改善します。胸痛が起きる状況や胸痛の性質、年齢や動脈硬化を進行させる危険因子の有無を評価することで、狭心症かどうかは、かなりの割合で推察できます。

客観的検査として心電図検査も行いますが、心電図に変化が出るのは、不安定狭心症や心筋梗塞のように心臓に障害を来している場合であり、症状のない時に心電図を記録しても異常とはなりません。そのため場合によっては、運動負荷心電図といって、階段の昇り降りや、自転車こぎなどの負荷を心臓にかけた後に心電図検査を行います。それでも運動の強度が足りなければ異常がないこともあります。他にも24時間心電図検査や心臓超音波検査を実施することもあります。狭心症かどうかの判定は困難なことがほとんどです。

狭心症の有無を明確にする検査としては冠動脈CT、心臓カテーテル検査があります。この2つの検査はいずれも高度な装置が必要となり、大分では大分医療センターのみ実施可能です。冠動脈CTは外来でも可能な検査であり、造影剤を点滴しながら冠動脈（心臓の血管）を撮影し、狭心症の有無が評価できますが、不整脈等の持病があると評価困難なことがあります。心臓カテーテル検査は主に手首の動脈から、カテーテルと呼ばれる細い管を心臓の血管に入れて直接冠動脈を造影する検査で、狭心症の有無が一番明確に判る検査であり、狭心症（冠動脈狭窄）があれば、治療へ移行することも可能です。検査には2泊3日程度 of 入院が必要となります。

気になる胸痛があれば、かかりつけ医にご相談ください。まずは問診や体への負担の少ない検査を行い、狭心症が疑わしければ専門医へご紹介致します。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000